北經經濟資料

第九九號　最近ニ於ケル世界小麥事情一般並米國小麥事情

滿鐵・北滿經濟調査所編

14.5-745
1200501218469
14.5
5

始

14.5
745

昭和十三年四月二十一日

北滿經濟資料第九九號

最近ニ於ケル世界小麥事情一般竝米國小麥事情

滿鐵。北滿經濟調査所

14.5
745

帝國圖書館藏

ハシガキ

本書ハ哈爾濱米國總領事館ヨリ入手セシ首題資料ヲ鐵道總局產業課哈爾濱在勤員工藤久吉カ飜譯セルモノテアル。

昭和十三年四月二十一日

滿鐵。北滿經濟調査所

同所寄贈本

昭和十三年三月 帝國圖書館藏

目次

一　世界小麥事情概略……一
二　最近世界小麥生產高……五
三　最近世界小麥輸出高並輸出可能高……二二
四　最近世界小麥輸入高並輸入推定豫想高……二三
五　最近世界小麥市況並相場……三一
六　最近米國小麥事情（生產、輸出入高、市況）……三五

一　世界小麥事情一般

一九二九年ヨリ一九三三年ニ至ル比較的供給量ノ大ナリシ年代ニ比スレハ其ノ後ニ於ケル世界小麥供給量ハ、最近ノ引續ク生産減ト小麥需要ノ急増トニ依リ相對的ニ著シク減退ノ狀勢ニアリ之ヲ相場關係ニ付キ見ルニ最近遂年昂騰ヲ辿レル世界一般物價指數及最近過去四箇年間ニ於ケル北米地方産小麥ノ打續ク生産量激減、竝一九三五―三六年度南半球地帶ニ於ケル小麥生産量ノ減退等惡材料ノ續出ニ依リ、一九三三年以來ノ世界小麥相場ハ漸騰ノ一途ヲ辿レルカ一九三六―三七年ニ至リテハ更ニ近年稀ナル小麥供給量ノ著減ニ逢ヒ世界小麥相場ハ遂ニ停止ヘルヲ知ラサル奔騰振リヲ示現セリ。

アメリカ合衆國農業經濟局ノ發表ニ依レハ、支那・ソヴエートヲ除ク世界小麥ノ本初期（一九三七年七月始）前年度小麥ノ繰越高ハ其ノ前年同期ニ比シ二一〇（百萬ブツシエル）ノ減少ヲ示セルモ本年度産小麥ノ收穫高ハ前年ニ比シ二六五（百萬ブツシエル）ノ増收ナルヲ以テ今期（一九三七―三八年）世界小麥ノ供給量ハ、前年ニ於ケル比較的僅少ナル總計供給量ニ比シ差引五五（百萬ブツシエル）ノ増大ヲ示スモノトサレ居ルモ本初期一九三七年七月ニ於ケル世界小麥在荷ハ支那及ソヴエートヲ除キ五二〇（百萬ブツシエル）ニシテ前年同期ニ於ケル七三〇（百萬ブツシエル）及ストツク過大時代前ノ一九二四―二八年五年間平均在荷數量六五〇（百

萬ブッシエル）ニ比スルモ尚減少シ居ルヲ以テ結局本期ニ於ケル（一九三七年七月ー一九三八年六月）世界小麥供給量トシテ一箇月以前推定セル數量ト大差ナク三、八〇八（百萬ブッシエル）程度ヲ豫想セラル、從テ過去十箇年間ノ世界小麥年間平均消費量カ略三、七七〇（百萬ブッシエル）ナルコトヨリ推スルニ本期世界小麥供給ノ圓滑化ハ望ミ難キカ如ク思惟セラル

尚アルゼンチンニ於ケル小麥ノ霜害ニ付キ、ヴエノスアーレス所在農業經濟局事務所ノ發表ニ依レハ當事務所ノ推定ニ依ル霜害前ノアルゼンチン小麥收量ハ總計二三〇（百萬ブッシエル）之カ被害面積ハ相當廣範ニシテ現在ノ所未タ適確ナル査定ヲナシ得サルモ數量ニ於テ略三〇（百萬ブッシエル）ニ上ルモノノ如シト。從テ假ニ該地ニ於ケル霜害減量ヲ三〇（百萬ブッシエル）トセハ結局同地收量ハ二〇〇（萬萬ブッシエル）トナリ前年收量二四九（百萬ブッシエル）ニ比シ四九（百萬ブッシエル）ノ減收トナルヘシ、又オーストラリヤニ於ケル本期小麥收量ハ、前期收量一五〇（百萬ブッシエル）ニ比シ一三（百萬ブッシエル）增ノ一六三（百萬ブッシエル）ト傳ヘラル。

右ノ如キ事情ナルヲ以テ一般世界小麥相場ハ、向後數箇月間ハ主トシテアルゼンチン及オーストラリヤニ於ケル收量豫想變化及冬時小麥豫想數量、歐洲ニ於ケル小麥需要程度竝ソヴエート聯邦小麥輸出政策或ハ又一般經濟動向等ニ左右セラレ其ノ決著ヲ見ルモノト思惟セラル。

一九三七年七月一日ヨリ同十一月十五日ニ至ル迄ノ米國小麥並小麥粉（原穀ニ換算）輸出數量ハ僅カ二三（百萬ブッシェル）ニ過キサルモ、當局推定ニ依レハ、本期輸出數量ハ尙七千二百萬ヲ加ヒ計九千五百萬ブッシェルニ達スル見込ナリト。

尙同局發表ニ係ル最近入手セル世界小麥概要ニ基キ前回迄ノ報告內容ヲ下記ノ如ク修正ス。

アルゼンチンニ於ケル旱害並霜害ハ目下尙其ノ被害程度ニ就キ確實ナル推定ヲ下スコト困難ナルモ當局發表ニ依レハ一九三七—三八年收量ハ昨年ニ比シ六千五百萬ブッシェル減ノ一億八千五百萬ブッシェル程度ト推定サレ居ルカ而モ、アメリカ合衆國ニ於ケル收量又減收豫想ナルカ爲、一九三七—三八年度世界小麥總計供給量ハ（ソヴエート及支那ヲ除ク）前回豫想ノ三、八〇八（百萬ブッシェル）ニ比シ二九（百萬ブッシェル）減ノ三、七七九（百萬ブッシェル）ト推定セラル。米國ニ於ケル減收豫想トハ、前回豫想ニ於ケル一九三七年度小麥收穫高八八六、九九三、〇〇〇ブッシェルナリシニ拘ラス、※次表米國主要農產物生產高表ニモ記載セルカ如ク、十二月現在米國小麥收量ハ右前回收量ニ比シ、一千三百萬ブッシェル減ノ、八七、九九三、〇〇〇ブッシェルト推定セラレ居ルニ因ルモノナリ。然レ共上記一千三百萬ブッシェルノ修正ハ主トシテ硬質赤色春蒔小麥ニツキ爲サルルモノニシテ此ノ程度ノ低減ハ同種小麥ノ米國內消費需要ニ對シテハ何等供給不足ヲ告クル程ノモノニハ非ス。

※ 米國小麥情報第五表參照。

又他種小麥ノ米國內ニ於ケル需給狀態ヲ豫想スルニ、軟質、硬質兩赤色冬蒔小麥及白色小麥等ニ在リテハ何レモ相當數量ニ上ル國內餘剩ヲ見ルモノノ如ク思惟セラル（米國小麥情報、品種別需給配分狀態第二表參照）。

然レ共世界小麥供給量總計ニ付キ見ルニ本年度ハ前年ニ比スレハ少量ナカラ二千五百萬程度ノ增加ヲ示シ三、七七九（百萬ブッシエル）ヲ豫想サレテ居ルモ依然トシテ供給不足ヲ免レス、最近ニ於ケル南半球小麥又不振ヲ告ケタルヲ以テ例年一月相場ニハ重要ナル影響ヲ持ツモノトシテ期待セラレシ同地方季節的出廻モ本年ハ右ノ如キ外部的事情ニ吸收セラレ相場關係ニハ左程ノ影響ヲ及ホササリキ。

ソヴエートニ於ケル一九三七年七月一日ヨリ同十二月十七日ニ至ル期間ノ小麥輸出數量ハ三千萬ブッシエルニ達シ、前年ノ僅カ四百萬ニ比スレハ既ニ七・五倍ノ數量ニ上リ居ルモ一昨年及一昨年ノ農作時ニ在リテ夫々二千九百萬及三千四百萬ブッシエルナリシコトヨリ推スルニ其ノ後本期末ニ至ル輸出數量ハ最大限一千萬ブッシエル程度ナルヘシト豫想セラル。

二　世界小麥生產高

最近（一九三七年十一月末）知リ得ル範圍ニ於ケル一九三七ー三八年世界小麥生產高（ロシヤ及支那ヲ除ク）ハ總計三、八〇八百萬ブツシエルニシテ、之ヲ前年同期ノ總計ニ比スレハ二六四百萬ブツシエル、又過去最近五箇年間平均數量ニ比スレハ二三四百萬ブツシエルノ何レモ增收ナリ。

右ノ中北半球（ロシヤ及支那ヲ除ク）ニ於ケル總收量ハ三、三七八百萬ブツシエルヲ豫想セラレ（後述內譯詳記セル第一表參照）、前年總收量ニ比シ三一二百萬ブツシエルノ增收ナルモ北部アメリカ卽チアメリカ合衆國及カナダニ於ケル收量ハ計一、〇七〇百萬ブツシエルニシテ內カナダニ於ケル本年度豫想收量ハ昨年ノ實收量二二九百萬ニ比スレハ四六百萬ノ減收トナリ一九一四年以來ノ最小收量ヲ示セリ。而モ品質ニ於テモ前年ニ比スレハ一般ニ遙カ低位ナルカ如ク傳ヘラル。

歐洲ニ於ケル本年度（一九三七ー三八年）小麥ハ總計一、五三〇百萬ト稱セラレ、十月推定セシ數字ニ比スレハ、局部的變更ハアリタルモ總計ニ於テハ大差ナシ。

其ノ後最近入手セル資料ニ依リ世界小麥生產高豫想量ヲ見ルニ、

ロシヤ、及支那ヲ除ク世界生產高總計ハ三、七七九百萬ブツシエルトセラレ前述推定量ニ比スレハ二九百萬ブツシエルノ減收豫想ナリ。

這ハアメリカ合衆國並南半球アルゼンチン等ニ於ケル減量ニ依ルモノナルカ、之ヲ前年同期數量ニ比スレハ尚二四一百萬ブツシエルノ增收ナリ。

北半球（ロシヤ及支那ヲ除ク）ニ於ケル總豫想收量ハ前年（一九三六―三七年）總量三、〇六六百萬ニ對シ三、三六五百萬餘チ二九九百萬ブツシエルノ增收豫想ニシテ前述三〇六百萬ブツシエル增收豫想ニ比スレハ一三百萬ブツシエルノ減量トナルカ右ハアメリカ合衆國ニ於ケル豫想收量カ前記收量八八七百萬ヨリ一三百萬減ノ八七四百萬ブツシエルト推定セラレシニ因ル

アルゼンチンニ於ケル十月後半ヨリ十一月前半ニ亘リシ旱霜害ニ付テハ確實ナル情報ナキモヴエノスアーレス事務所長ノ報告ノ「當地官廳當局ノ發表ニ係ルアルゼンチン小麥總收量一九一、九八四、〇〇〇ブツシエル中ニハ被害ノ全部カ含マレテ居ナイ樣ニ思ハレル」トノ事實ヲ考慮シ本農業經濟的トシテハ略一八五、〇〇〇、〇〇〇ブツシエル程度ト推定セリ。

オーストラリヤニ於ケル本年度收穫高ハ、實收完了セルヲ以テ

略確定ヲ見、前記豫想一六二、九五四、〇〇〇ブツシエルニ比スレハ約一百萬ブツシエル減ナルモ之ヲ前年ニ比スレハ一二百萬ブツシエルノ增又前年ニ至ル過去六箇年間平均收量ニ比スレハ全ク同量ト發表セラレタリ。

各國別最近四箇年間（本年度豫想收量ヲ含ム）年別世界小麥生產高ヲ表示セハ左ノ如シ。

第一表

最近四箇年間世界主要小麥生産國別小麥收穫高（單位千ブッシエル）

國名	一九三四—三五年	一九三五—三六年	一九三六—三七年	一九三七—三八年
アメリカ合衆國	五二六、三九三	六二六、三四四	六二六、七六六	八七三、九九三
カナダ	二七五八四九	二八一、九三五	二二九、二一八	一八二、五〇五
メキシコ	一〇、九五〇	一〇、七一二	一三、六〇六	一一、二一六
北米大陸合計	八一三、一九二	九一八、九九一	八六九、五九〇	一、〇六七、七一四
イングランド並ウエールス	六五、二五九	六〇、五九二	五一、四四五	四八、八三二
スコットランド	四、一四四	四四八〇	三、五四七	四、一八一
北部アイルランド	三六三	三六二	二七三	二四〇
アイリッシュ自由國	三、八〇三	六、六八六	七、八三九	七、二〇〇
ノールウエイ	一、二〇四	一、七六七	二、〇九四	二、五二四
スエーデン	二七、八〇六	二三、六一〇	二一、五二五	二六、四九五
デンマーク	一二、八四七	一四、六七二	一一、二六六	一一、九〇〇
ネザーランド	一八、〇四二	一六、六五三	一五、五七五	一二、九五九

ベルギー	一六、七五七	一六、一〇一	一六、一五三	一四、七〇〇
フランス	三三八、五一三	二八四、九五〇	二四八、二八三	二四六、二〇〇
スペイン	一八六、八三四	一五七、九八六	一二一、四九〇	一三五、〇〇〇
ルツクセンブルグ	一、一七一	一、〇二二	一、〇七〇	一、一九〇
ポルトガル	二四、六九〇	二二、〇九二	八、六五一	一四、五四〇
イタリー	二三三、〇六四	二八二、七六〇	二二四、五七〇	二九六、〇一〇
スキス	五、五一九	五、九八九	四、四七〇	六、一六二
ドイツ	一六六、五四七	一七一、四八八	一六二、六六〇	一六一、一九三
オーストリヤ	一三、三〇六	一五、五〇九	一四、〇三九	一四、四七〇
チエツコスロバキヤ	五〇、〇一四	六二、〇九五	五五、五八三	五一、二六六
ギリシヤ	二五、六七九	二七、一八〇	一九、五三七	三二、七二〇
ポーランド	七六、四四一	七三、八八四	七八、三五七	六七、六〇八
リシユアニヤ	一〇、四七六	一〇、〇九三	七、九四九	七、九九一
ラトヴア	八、〇五一	六、五二〇	五、二七二	六、三二〇
エストニヤ	三、一〇七	二、二六七	二、四三三	二、七六七

フィンランド	三、二八〇	四、二三三	五、四四二	六、三二〇
マルタ	三一〇	一七九	二三六	三二六
アルバニヤ	一、六二八	一、五五四	一、一二八	一、二九三
小計	一、二九八、八五五	一、二七四、七二四	一、〇九〇、六〇一	一、一八〇、四〇七
ブルガリヤ	三九、五九五	四七、九二五	六〇、三五〇	五六、四九二
ハンガリー	六四、八二四	八四、二二四	八七、七八九	六九、八九五
ルーマニヤ	七六、五五三	九六、四三九	一二八、七一七	一三六、〇〇一
ユーゴウスラヴヤ	六八、三二八	七三、一〇一	一〇七、四二一	八八、六、二五二
ダニユーヴ地方合計	二四九、三〇〇	三〇一、六八九	三八四、二七七	三四八、六四〇
歐洲諸國合計	一、五四八、一五五	一、五七六、四一三	一、四七四、八七八	一、五二九、〇四七
アルゼリヤ	四三、五二八	三三、五三二	二九、七七四	三三、九九五
モロッコ	三九、五八六	二〇、〇三六	一二、二三四	一八、三七二
トニシア	一三、七七九	一六、九〇二	八、〇八三	一八、三七二
エヂプト	三七、二七七	四三、二二二	四五、七〇〇	四五、三七六
亞佛利加諸國合計	一三四、一七〇	一一三、六九二	九五、七九一	一一六、一一五

パレスティン	三、〇四四	三、八三四	二、七九五	(二、八〇〇)
シリヤ竝レバノン	一六、二七九	一八、五二〇	一五、七〇四	一七、二一〇
印度	三四九、八一三	三六三、二一六	三五一、六八〇	三六六、一六五
日本內地	四七、六六〇	四八、七一八	四五、一九二	五〇、四一〇
朝鮮	九、二六八	九、七四七	八、〇七八	一一、〇四一
トルコ	九九、七一二	九二、六四〇	一三八、四九七	一四〇、三一一
亞細亞諸國合計	五二五、七七六	五三六、六七五	五六一、九四六	五八七、九三七
※ロシヤ、支那ヲ除ク北半球小麥合計	三、〇九六、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇	三、〇六六、〇〇〇	三、三六五、〇〇〇
アルゼンチン	二四〇、六六九	一四一、四六二	二四九、一九三	一八五、〇〇〇
オーストラリヤ	一三三、三九四	一四四、二一七	一五〇、一〇六	一六一、九五四
南阿聯邦國	一六、三七三	二〇、一九五	一六、〇七七	一二、〇三三
南半球小麥計	三九〇、四三六	三〇五、八七四	四一五、三七六	三五八、九八七
※ロシヤ、支那ヲ除ク世界小麥全收量	三、五四三、〇〇〇	三、五八二、〇〇〇	三、五三八、〇〇〇	三、七七九、〇〇〇

※印合計數字ハ明細記載以外ノ推定數量ヲ含ム。

◎印ザール地方ヲ含ム

アルゼンチンニ於ケル旱害竝霜害情報

アルゼンチンニ於ケル一九三七年末霜害ノ主ナル地帯トシテハ中部地方、ヴエノスアーレス地方竝ラ・パンパ領域内西部地方等ナルカ前述セル如ク現在ノ所適確ナル數字ヲ以テ表示シ得サルモ當局ノ推定ニ係ル減收豫想ハ略三〇百萬ブツシエル程度ナルヲ以テ、最近發表ノ作付面積一九二七五〇〇〇エーカーニ對スル豫想收量二三〇百萬ブツシエルヨリ右三〇百萬ブツシエルヲ控除セル二〇〇百萬ブツシエルヲ同地ニ於ケル收穫高ト看做シ大過ナカルヘシ。

世界ライ麥生産高

世界主要ライ麥生産國ニ於ケル最近四箇年間ノライ麥生産高ヲ示セハ左ノ如シ。

ライ麥主要生産地帯ハ歐洲北部地方ニシテ、アメリカ合衆國、之ニ次ク、而シテ歐洲ニ於ケルライ麥主要生産國二十六箇國合計ノ本年度豫想收量ハ八一四八六四〇〇〇ブツシエルニシテ世界總産額ノ九一%ヲ占ム、尚左表合計欄ヲ見レハ明ナル如ク本年度産世界ライ麥收量ハ（ロシヤヲ除ク）對比前年ニ於テ四八三七〇〇〇ブツシエルノ減收ヲ豫想セラル、而シテ本減收ハアメリカ合衆國ニ於ケル增收豫想ニ對シ、歐洲北部地方ドイツ、ハンガリー及ポーランド等主要生産國ニ於テハヨリ大ナル數量ニ上ル減收豫想存スルニ因ル

第二表

最近四箇年間世界主要ライ麥生產國別收穫高（單位千ブッシエル）

國名	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
アメリカ合衆國	一七〇七〇	五八五九七	二五三一九	四九四四九
カナダ	四七〇六	九六〇六	四二八一	五七四九
アルバニア	一四一	一一一	一一六	一一四
オーストリヤ	二二六一七	二四四一六	一八六一〇	一六八三〇
ベルギー	一五二六八	一二九九五	一四〇五九	一二八〇〇
ブルガリヤ	六四三八	七七六七	八一八八	八二九三
チエツコスロバキヤ	五九九六八	六四五〇一	五六五四九	五八四四七
デンマーク	一〇八〇一	一一七七	七八四二	九六〇〇
エストニヤ	九〇六四	六八〇四	六〇四四	八一〇九
フインランド	一五五四四	一三七六〇	一二七五五	一六二九九
フランス	三二九八三	二九三七一	二八一五〇	二九一五一
ドイツ	二九九四九六	二九四三九九	※二九〇七九三	※二六六二一七

ギリシャ	二、四六六	二、一八三	一、六五四	二、五八八
ハンガリー	二四、三八〇	二八、六五〇	二八、一一四	二二、九四五
アイル自由國	六六	六九	六八	七九
イタリー	五、六〇七	六、二二五	五、二〇四	五、七〇一
ラトビヤ	一六、二一〇	一四、三二六	一一、二六〇	一六、五七四
リシユアニヤ	二六、三三一	二五、二二一	二一、三一四	二三、六六〇
ルクセンブルグ	五四八	四五二	四四九	四八八
ネザイランド	一九、七八八	一八、三一一	一九、〇五九	一九、五一一
ノールウエー	三九五	四八三	四二五	四六五
ポーランド	二五四、四七二	二六〇、四九八	二五〇、五三六	二二九、五一八
ポルトガル	四、九一三	四、六三五	三、四六六	四、六四二
ルーマニヤ	八、三〇八	一二、七二四	一七、八四二	一六、六九七
スペイン	二一、五六七	一九、二四五	一八、〇五三	一九、七〇〇
スエーデン	二〇、三五一	一六、九〇二	一三、八九一	一六、九八四
スイス	一、二二五	一、二五二	一、〇七七	一、二一三

ユーゴウスラビヤ	七、六八八	七、七一九	八、〇〇二	八、二三九
アルゼリヤ	四五	一七	二九	四一
アルゼンチン	一五、六四五	五、〇〇〇	七、四八〇	四、五二七
トルコ	九、五八九	八、五〇八	一七、六六〇	一八、八二二
合計	九三三、六九〇	九六五、九二四	八九八、二八九	八九三、四五二

※印ザール地方ヲ含ム

オーストリヤニ於テライ麥本期輸入數量ノ急增ヲ示セシハ、同國ニ於ケル本年度ライ麥收量激減ノ爲同種麥類ノ國內供給ニ不足ヲ告ケ、本不足量ヲ、同國產鐵製品賣渡シ受取勘定ニ對スル給付トシテ、ルーマニヤ、ロシヤ、トルコ、或ハダニューヴ地方諸國等ヨリ原穀ノ儘ニテ輸入セシニ基因ス

イタリー、フランス及北部アフリカ等ニ在リテハ、本年ドラム種ハ國內ノ供給比較的潤澤ナリシヲ以テ、南北アメリカ或ハ東部地中海方面ヨリノ輸入ハ極メテ少量ナルヘシト思推セラル（卽チアルゼリヤ、タニシヤニ於ケル過剩供給量ハ主トシテフランスヘ、）

尙イタリーニ於テハ收量比較的大ナリシモ、國內在荷多量堆積方策ニ依リ同國產小麥ノ海外輸出ハ相當數量ニ上ル節減ヲ見ルカ如シ、（同國內ストツクトハ主トシテ國產ドラム種麥粉及一

部北部アメリカ等ヨリノ硬質小麦製品ヨリ成ル。）

最近ノ情報ニ依ル各國別ドラム種小麦生産高（單位百萬ブッシエル）左ノ如シ

國名	一九三一年1三五年平均	一九三六年	一九三七年	備考
アメリカ合衆國	二一・八	八・一	二七・八	上記國名外ノドラム種小麦主要生産國トシテハアルゼンチン印度及ロシヤ等ナリ。
カナダ	一七・八	一五・三	三〇・七	
イタリー	五七・六	五七・四	六九・一	
モロッコ	二一・〇	八・五	一一・〇	
アルゼリヤ	二二・九	一八・六	二一・三	※一九三五年ノミ（平均ニ非ラス）
チユニシヤ	九・八	四・四	九・九	
イタリー及北部アフリカ合計	一一一・三	八八・九	一一一・三	

一九三七年冬蒔小麦作付面積竝作況概要

カナダニ於ケル一九三七年冬蒔小麦（秋末蒔）作付面積ハ六九〇、〇〇〇陌ト稱セラレ、前年ノ七八一、〇〇〇陌ニ比スレハ九一、〇〇〇陌ノ減少ヲ示セルモ、例年旱魃地帶ト目サシ同地方ニ於テハ其ノ後例年ニ見サル降水量アリタルヲ以テ、本春春蒔小麦ニ取リテモ、好適ナル土壌水

分ヲ保持シ居ルモノトシテ大ナル期待ヲ掛ケラレツツアリ、大歐洲諸國ニ付テハ最近情報ナキモ、初期ノ報セラルル所ニ依レハ、東部並中部歐洲ニ在リテハ一般ニ秋期播種ニ當リ極メテ適順ナル氣象條件ニ惠マレタル關係上、播種面積ニ在リテモ多少例年ニ比シ增加ノ見込ミナリト傳ヘラル。

又ダニユーヴ地方ニ在リテモ秋耕播種時概シテ適順ナル氣候ニ惠マレシトハンガリー及ルーマニヤニ於ケル增反等トニヨリ（ルーマニヤ對比前年一二％增）同地方ニ於ケル一九三七年冬蒔小麥ハ前年ニ比シ多少ノ增加ヲ豫想セラル。

イタリーニ於ケル冬蒔小麥ハ政府ノ增反奬勵計畫實施ニ伴ヒ多少增加ノ期待アリタルモ、播種時北伊地方ニ於ケル相當廣範圍ニ亘ル氣象不順ニ禍セラレ寧ロ前年作付面積ニ比スレハ減少ノ見込ミナリ。スペイン及北部アフリカニ於ケル秋蒔小麥作付面積ハ前年ト略同樣ナリ。

秋蒔及冬蒔小麥ノ作況ニ付テハ、現在ノ所北部アフリカニ於ケル雨量過少及イタリー北部ニ於ケル不順氣象ヲ除ケハ一般ニ著シキ災害モ認メラレス、全歐洲ヲ通シ（イタリーヲ除ク）概シテ良好ナル作況ヲ辿リツツアルモノト言ヒ得ルカ如シ。

主要小麥輸出國別本年度（一九三七―三八年）輸出數量（推定）

現在豫想セラルル收量、持越高或ハ國內消費等ヨリ綜合調査セル各國別本年度小麥純輸出數量ヲ示セハ左ノ如シ。

但アメリカ合衆國輸出小麥ノ大部分ハ既流セル如ク（米國小麥情報第四表）硬質赤色冬時小麥及白色小麥ニ限ラル

（單位百萬ブッシエル）

國名	純輸出數量
アメリカ合衆國	九〇
カナダ	七五
アルゼンチン	八〇
オーストラリヤ	一〇五
ダニユーヴ	六〇
ソヴエート・ロシヤ	四〇
其ノ他	三五
合計	四八五

ダニユーヴ、ポーランド及チエツコスロバキヤ等歐洲ニ於ケル主要輸出國ヨリノ本年度豫想數量ハ前年ノ夫レニ比シ何レモ減退ヲ示スモノト推セラル卽チダニユーヴ地方ニ於テハ前年ノ八百萬ニ比シ本年ハ右表豫想數量ノ如ク六〇百萬ト見ラレ又ポーランド及チエツコスロバキヤニ於テハ前年輸出數量夫々六百萬及一〇百萬ナルニ比シ本年ハ右二箇國合計ニテ僅カ二百萬程度ノモノト思惟セラル。

尙參考迄ニ、昨年七月ヨリ十月ニ至ルダニユーヴ地方諸國ニ於ケル小麥及小麥粉（原穀換算）輸出數量ハ合計二五百萬ブツシエルニ達セルカ之カ內譯及主要輸入國名ヲ記セハ左ノ如シ。

輸出國名	合計二五百萬ニ對スル%	主要輸入國名（輸入數量順）
ルーマニヤ	六〇%	イギリス、ギリシヤ、ドイツ、ベルギー
ユーゴースラヴヤ	一七%	ドイツ
ハンガリー	一二%	ギリシヤ
ブルガリヤ	一一%	イギリス、ドイツ

ポーランドニ於テハ前年ニ於ケル過重輸出ノ結果本年度ヘノ持越數量激減セルカ且ハ本年收量不年落ノ爲、供給量潤澤ヲ缺キ、現ニ同國內相場ヨリ見レハ輸出採算困難ナル狀態ヲ示シツツアルヨリ以テ本年度同國ヨリノ小麥輸出ハ甚タ望ミ薄シト思料セラル。

ルーマニヤヨリドイツヘノ小麥輸出ハ三百萬ブツシエル（半量ハ小麥粉）ノ商談ヲ見、既ニ百萬ブツシエルノ輸出ヲ見タルモ、最近ルーマニヤニ於テハ輸出小麥ノ値上ヲナシ、且ルーマニヤ製酒ト同時輸出ノ場合ニ限リ小麥輸出ノ許可制ヲ實施セシヲ以テ同國ヨリノ小麥輸出ニハ種々ノ困難ヲ伴フモノト思惟セラル。チエツコスロバキヤニ於テハ本年モ尙相當量ニ上ルライ麥ノ不足ヲ告ヶ居ルカ右ノ如キ事情ニテ諸外國ヨリノ輸入困難ナルニ付（主トシテルーマニヤ及ロシヤヨリ）當然法令ヲ以テ小麥粉ヲライ麥粉ヘ混入セシムルニ非スヤト推セラル。

モロツコ、本年ハ穀類ノ收量ノ一般ニ減退ヲ見タルカ、殊ニ大麥ニ在リテハ前年ノ略半量サヘ達セサル狀態ニアリドラム種小麥ノ不足ハ他國ヨリ三。五百萬程度ノ輸出ヲ仰ク必要アルカ、現ニ今日迄（十二月中旬）百萬ブツシエルノ輸入許可ヲ受ケ既ニカナダヨリセ〇〇、〇〇〇ブツシエル、トルコヨリ一〇〇、〇〇〇ブツシエルヲ見ルモノノ如シ。斯ノ如キ狀態ナルヲ以テモロツコヨリ佛國ヘノ製パン用小麥輸出數量ハ結局二百五十萬ブツシエル程度ナルヘク、（之カ同國ニ於ケル小麥輸出ノ全量）從テモロツコハ差引キ百萬程度ノ輸出超過國タルニ過キサルヘシ。

アルゼリヤ、小麥供給數量ヨリ推スルニ本年度ハ製パン用小麥二百五十萬ブツシエル、ドラム種小麥八百萬ブツシエル見當ノ國外純輸出ヲ見ルニ止マリ、例年ニ於ケルカ如キ數量ハ望ミ薄

シト思料セラルチユニースヨリノ本年度紳輸出數量ハ製パン用小麥四百五十萬ブツシエル、ドラム種小麥四百萬ブツシエル程度ニ達スル見込ミナリ。

アルゼンチン本年度產小麥ハ略一九二百萬ブツシエル見當ナルカ國內消費九九百萬ブツシエルヲ控除セハ輸出向乃至次年度ヘノ持越高ハ僅カ九三百萬ブツシエルトナリ、現ニ例年ニ見サル荷動不活發ヲ告ケツツアリ、卽チ同國ニ於ケル本年一月以降六月ニ至ル下半期輸出豫想數量ハ前年ノ實績一二五百萬ブツシエルニ比シ僅カ六〇百萬ブツシエル程度ト推セラル。

カナダニ於ケル一九三七年產小麥ハ量、質共ニ極メテ不振劣惡ナリシ爲、最近世界各所共硬質小麥ニ付品枯レ或ハ手薄ヲ告ケ、米國ストツクノ硬質小麥ニ對シ各方面共注目シツツアレハ、右ストツク中尙三〇百萬ブツシエル程度ハ輸出向出荷ヲ見ルモノノ如シ。（二月一日現在推定）

一九三七年十二月一日現在ノカナダ、アルゼンチン、オーストラリヤ、英本國港灣並海洋浮航中ノ小麥餘剩（輸出向又ハ持越）高ハ合計一二四百萬ブツシエルニシテ、米國ハ再ヒ輸出超過トナリタルニモ拘ラス、昨年同期ノ合計ニ比スレハ九二百萬ブツシエルノ激減ヲ示シ、左表例年トノ比較ニ於テモ明カナル如ク、遂年減退ノ一途ヲ辿リツツアリ一九三四年ヨリ一九三七年ニ至ル年別小麥餘剩數量ヲ見ルニ左ノ如シ（單位百萬ブツシエル）

（年度始メ持越高ヘ年生產高ヲ加算シ、夫レヨリ國內消費高及輸出數量ヲ減シタルモノナリ。）

年度始メトハカナダ七月三十一日、アルゼンチン一月三十一日オーストラリヤ十二月一日現在

カナダ	二八八	二六九	一二八	六九
米國	二四	三三	二四	五
アルゼンチン	二六	二二	一〇	五
オーストラリヤ	四〇	一七	八	四
小計	三七八	三四一	一七〇	八三
英本國港灣在荷	一五	九	七	一〇
海洋浮航中 英本國向	一六	一八	一九	一二
〃 歐洲大陸向	一一	六	一四	一二
〃 其ノ他向	八	三	六	七
小計	五〇	三六	四六	四一
合計	四二八	三七七	二一六	一二四

尚右表ノ他ダニューヴ地帶諸國ニ於ケル一九三七年十二月一日現在輸出向乃至持越用餘剩小麥數量ハ合計四四百萬ブッシエルナリ又世界小麥輸出向積送數量ハ一九三七年七月一日ヨリ同年十一月十一日迄ニ合計二〇四百萬ブッシエルニ達セルモ前年及前々年同期ニ比スレハ各四六百萬及一八百萬ノ減少ナリ。

次ニ小麥主要輸出國別最近二箇年間輸移出向船積荷動狀態ヲ見ルニ次ノ如シ、（單位千ブッシエル）

世界小麥主要輸出國ニ於ケル最近船積輸移出數量（單位千ブッシェル）

三　最近世界小麥輸出高並輸出可能高

國名	年別合計 一九三五―三六年	年別合計 一九三六―三七年	七月一日ヨリ同年十二月十八日ニ至ル 一九三七年
北部アメリカ	二二〇、四六四	二二五、九〇二	一三九、二二四	八七、三四〇
アルゼンチン	七八、三一二	一六四、六七八	二七、九〇四	一六、八六八
オーストラリヤ	一一〇、五七六	一〇五、八三六	三二、四〇八	三三、〇七九
ロシヤ	二九、〇二四	八八	八八	二九、七一二
ダニユーブ地方並ブルガリヤ	八、三一二	六五、五四四	三八、八〇〇	二四、〇一六
英領印度	二、五五六	一四、六七四	六、六三二	九、八五〇
合計	四四九、二四四	五七六、七二二	二四五、〇五六	二〇〇、八六五
アメリカ合衆國	七、二一九	一〇、〇四九	八、四一三	三六、四二五
カナダ	二三七、四四七	二一三、〇二八	一五一、七二三	五七、九一七

註　カナダ年別合計ハ官廳統計ニ依リ、十二月十八日ニ至ル合計ハ「ブルーム水ール」ノ穀類商報ニ依ル。他ハ凡テ一歳統計ニ依ル。

四　最近世界小麥輸入高並輸入推定豫想高

世界小麥主要輸入國ニ於ケル小麥輸入數量

世界主要國別純輸入數量合計ハ昨年九月現在ニ於テ略四八五百萬ブツシエルヲ豫想セラルルカ內歐洲ノ分ハ四〇〇百萬ブツシエルニシテ歐洲外諸國合計八五百萬ハ前年ニ比シ略四〇百萬ノ大減少ナリ。

之ハ本年度ニ至リ米國カ再ヒ輸出超過國ト變シタルニ依ル歐洲ニ於ケル右合計四〇〇百萬ハ對比前年ニ於テ三六百萬ノ減少ナルモ、之ヲ數年以前ノ夫レニ比スレハ尙五〇百萬以上ノ增加ナリ。而シテ本增加ノ理由トシテハ昨年ニ至リダニユーヴ地方ニ於ケル國外輸出數量著減セルカ勢ヒ、歐洲外諸國ヨリノ歐洲諸國ヘノ輸出數量比較的多量ニ上リタルニ依ルモノナリト。

歐洲小麥主要輸入國ニ於ケル最近五箇年間ノ年別輸入數量ヲ記セハ左ノ如シ。

（單位百萬ブツシエル、小麥粉ハ原穀換算加算ス）

國名	一九三三—三四年	一九三四—三五年	一九三五—三六年	一九三六—三七年	一九三七—三八年
オーストリヤ	一一	一〇	七	一〇	一〇
ベルギー	四三	四〇	三九	四〇	四〇
デンマーク	一二	一九	九	七	七

フキンランド	四	四	四	四	三
フランス	一八	(−)一七	七	七	二六
ドイツ	(−)四	一一	〇	二三	二八
ギリシャ	一二	一三	一五	二一	一三
アイルランド自由國	一九	一八	一五	一四	一四
イタリー	八	一〇	七	五五	六
ラトビヤ	〇。	〇。	(−)二	一	〇。
ネザーランド	二四	一九	二一	二一	二四
ノールウエー	九	九	八	九	八
ポルトガル	一	一	(−)三	〇	一
スペイン	(−)〇。	(−)〇。	〇。	六	一
スキス	一八	一八	一七	一九	一七
大英帝國	二一六	二〇二	二〇五	一九九	二〇二
合計	※三九三	※三五八	※三五〇	四三六	四〇〇

註 ○印五〇〇、〇〇〇〇ブッシエル以下ノ輸入超過數量、(−)印ハ輸出超過數量ヲ示ス、從テ(−)〇。八五〇〇、〇〇〇〇ブッシエル以下ノ輸出超過數量ヲ意味ス。

※印三九三ハ右記國別以外ノ墨典ニ於ケル同年純輸入數量二百萬ブッシエルヲ加算セルモノナリ。

†印數字三五八及三五〇ハ同樣チエッコスロバキヤニ於ケル同年百萬ブッシエル輸入ヲ加算セルモノナリ。

右表ニ依リ明カナル如ク最近歐洲ニ於ケル小麥並小麥粉ノ輸入數量ハ、前年及本年ニ於ケル特殊事情ニ依ル增加ヲ除キ（前述セル如キ）、概シテ逐年漸減ヲ辿ル傾向アルカ本年數量ニ在リテモ前述ノ如ク前年ニ比スレハ三六百萬ブッシエル程度ノ急減ヲ見ルモノト思惟セラル。

右急激ノ主ナル理由トシテハ、前年度歐洲小麥輸入國中第二位ヲ占メシイタリヤニ於ケル本年度輸入豫想ノ著減及ギリシヤニ於ケル本年度輸入數量ハ激減ヲ豫想セラルル等ニ因ル。本年イタリヤニ在リテハ法令ヲ以テ外國小麥ノ輸入ヲ制限シ、一方國內ニ於ケル小麥消費ノ節減ヲ期スヘク小麥粉ヲ他ノ穀粉ニ混用セシメ（地方的ニハライ麥粉、大麥粉乃至大豆粉ヲ小麥又ハ他種穀粉ニ混用スルコト法令ヲ以テ規定セリ）タル結果、國內小麥ストックノ著減ハ或程度緩和セラレ延テハ右表ノ如キ輸入數量減少豫想セラルルニ至レリ。

右表本年度輸入豫想數量中其ノ著增ヲ見タルハフランス、ドイツ、ネザーランド及大英帝國等

ニナルカ内フランス最モ甚シ。

フランスニ在リテハ前年純輸入數量七百萬ブッシエルナリシモ本年度數量ハ二六百萬ブッシエルヲ豫想セラレツツアリ。這ハ佛國ニ在リテハ他ノ諸國ニ於ケルカ如キ小麥輸入制限ノ方針トハ遂行シ獨リ同國ノミ國内小麥ストツク急減防止ノ目的ヲ以テ外國小麥輸入自由制ヲ採用シ居ルモノニ因ルモノナリ。小麥ノ主ナルモノトシテハ前年北部アフリカ方面ヨリノ原穀輸入數量一四百萬ブッシエルナルニ對シ本年ハ既ニ一九三七年度產小麥ノミニテ二〇百萬ブッシエルヲ超過セシカ如シ。

ドイツニ於ケル輸入增加豫想ハフランスト異リドイツ國一箇年ノ生產供給數量竝自然的需要增加等ヨリ推定セラレタル當然輸入數量ニシテ、現ニ之ヲ前年ニ對比スルモ著增トハ謂ヒ難キ程度ナリ。尤モ元來同國ニ在リテハ他ノ諸國ニ比シライ麥ノ生產比較的多量ナル關係上外國小麥輸入制限ノ目的ヲ以テ傳ヘラルル如ク本穀粉ヲ他ノ小麥粉ニ混用セシムル樣法令ヲ以テ規定セラルルモノト豫想セハ前記數量ニ變化ヲ來スヘキハ當然ナリ。

然レ共限在ノトコロ他國ニ於ケルライ麥ノ收量比較的僅少ナルト共ニ、一方ドイツトシテハ之カ國外輸出ヲ圖リ、代償トシテ小麥ヲ輸入スヘキ還境ニ立置カル關係上、右ノ如キドイツ國小麥輸入制限或ハ一般小麥相場關係等ニ異常ナル惡材料ノ出サル限リ本年度輸入數量トシテ前

記豫想ハ大過ナカルヘシト思料ス。

ポルトガルニ於ケル一九三七ー三八年國内小麥供給量ハ例年ニ比シ比較的小量ナルモ、ドイツ國ニ於ケル國内小麥粉消費節減法令（後述）ト同様同國ニ在リテモ一九三七年九月十五日次ノ如キ法令ノ實施ヲ見タルニ依リ本法令ノ影響ニ依リ小麥輸入數量ハ依然トシテ最小限度ヲ保ツモノト推セラル。

ポルトガル小麥粉消費節減法ー高級質パン製造ニ使用以外ノ製パン用麥粉ニハ一％ノ玉蜀黍粉及ライ麥粉ヲ混入スルコト。其ノ後同國ニ在リテハ馬鈴薯豐作ナリシ爲輸入ライ麥節減ノ意味ニ於テ馬鈴薯ヲ之ニ代用セシムル旨ノ法令十一月二十七日附ニテ發令ヲ見タリ。

歐洲諸國ニ於ケル最近小麥（小麥粉ヲ含ム）純輸入高

（年度七月一日ヨリ翌年六月末ニ至ル）　（單位、百萬ブッシエル）

國名	一九三六ー三七年	一九三七ー三八年（豫想）	七月一日ヨリ各日ニ至ル	一九三六年	一九三七年
オーストリヤ	一〇・〇	一〇・〇	九月三十日	二・〇	一・〇
ベルギー	四〇・〇	四〇・〇	八月三十一日	七・〇	六・〇
チエツコスロバキヤ	(-)一一・〇	(-)一・〇	十月三十一日	(-)一・〇	(-)二・〇

デンマーク	七・〇	七・〇	十月三十一日	三・〇	二・〇
フィンランド	四・〇	三・〇	九月三十日	一・〇	一・〇
フランス	七・〇	二六・〇	八月三十一日	〇・四	二・〇
ドイツ	二三・〇	二八・〇	十月三十一日	〇・四	二二・〇
ギリシヤ	二一・〇	一三・〇	九月三十日	五・〇	四・〇
アイル自由國	一四・〇	一四・〇	十月三十一日	五・〇	五・〇
ラトビヤ	一・〇	〇・〇	九月三十日	〇・四	〇・四
ネザーランド	二一・〇	二四・〇	九月三十日	五・〇	六・〇
ノールウエー	九・〇	四・〇	十月三十一日	二・〇	二・〇
ポーランド	(一)六・〇	(一)一・〇	九月三十日	(一)二・〇	(一)〇・四
ポルトガル	(一)〇・四	一・〇	九月三十日	〇・四	〇・四
スペイン	六・〇	一・〇			
スエーデン	〇・四	(一)一・〇	十月三十一日	(一)一・〇	一・〇
スキス	一九・〇	一七・〇	十月三十一日	六・〇	五・〇
英本國	一九九・〇	二〇二・〇	十月三十一日	六四・〇	六五・〇

イタリー	五五・〇	六・〇				
純輸入計	四三六・四	四〇〇・〇		一〇〇・八	一二二・八	
純輸出計（丁印）	一七・四	三・〇		四・八	二・四	
差引純輸入數量	四一九・〇	三九七・〇		九六・〇	一二〇・四	

（丁印ハ純輸出數量ヲ記ス。

ドイツ國、製パン用穀類消費節減法實施サル。

ドイツ國ニ在リテハ遽テ豫想セラレシ如ク、外來麥粉輸入節減ノ目的ヲ以テ昨夏左記ノ如キ法令實施セラレタリ。

一　製パン用穀類トシテ全ク製粉不能ナルモノ以外ノ小麥及大麥ニ對シテハ家畜用飼料トシテノ使用ヲ禁ス。

一　種子用竝自家需要以外ノ製パン用穀類ハ總テ政府ニ於テ强制的買上ヲナス。

一　各等級小麥粉ニ對シ、他種穀粉ノ混入（平均七％程度）

一　ライ麥粉ニ對シ、他種穀粉ノ混入（約四％）

一　一般製パン用穀類ノ製粉歩留リヲ良化セシムル目的ニテ之カ技術的指導奬勵ヲナス。

右ノ如キ製パン用穀類ニ對スル消費節減法規ハ同國ニ於ケル製パン穀類ノ配分竝消費狀態ニ相當大ナル影響ヲ及ホスモノト思惟セラレシモ、客觀的事實ハ何等夫レラシキ傾向ヲ認ムルヲ得ス、即チ昨年八月ヨリ十月ニ至ル三箇月間ノ小麥消費ハ最近二箇年間ノ同期ニ比シ殆ト減退ヲ見ス、初期ノ期待ニ反スル結果ヲ示セリ。

然レトモ同國內食用パン類ノ品質カ一般ニ低下セル事實ヨリ推スルニ人口消費ニ充當セラレシ製パン用穀類カ或ル程度消費節減ヲ見タルハ容易ニ想像シ得ルトコロナリ。蓋シ仄聞スルトコロニ依レハ、一般ニ報道セラレサル同國產ライ麥ノ軍需用ストツクハ相當數量ニ上ル見込ニテ之カ國內消費トシテ算入セラルルカ故ニ右ノ如キ結果ヲ招來セルモノト思料セラル。

五　世界小麦市況並相場

1　市況

カナダ小麦ニ於ケル旱害並米國春蒔小麦ニ於ケル黒穂病及旱害ハ一九三七年六月中旬ヨリ翌七月中旬ニ掛ケ一般海外小麦相場ヲ急奔騰セシメタルモ之カ反動トシテ其ノ後七月中旬ヨリ八月ニ掛ケテハ下押傾向ヲ辿リシカオーストラリヤ及印度ニ於ケル比較的高値出荷或ハアルゼンチン十一月ー十二月積ミ先物相場又高値示現セルニ依リ、再ヒリヴアプール急騰ヲ示スニ至レリ。

リヴアプール市場ニ於ケル一九三七年十月前半中ハ一般需要筋ノ買進リトアルゼンチンニ於ケル收穫期間近カ及ソヴエートニ於ケル海外出荷多量等ノ影響ヲ受ケ、氣配稍軟弱ナリシモ、同月後半ニ入リアルゼンチンノ收穫期降水ニ依ル收穫遅延ニ加フルニ旱害懸念サヘ報セラルルニ及ヒ、俄然騰勢ヲ辿リ高値ヲ持續セリ。越月初週ニ入リ各地ニ於ケル作柄良好說並ソヴエート及ダニエーブ地方ニ於ケル引續ク多量出荷說等ニ一時急落ヲ示セルモ、十一月十日及翌日ニ亘ルアルゼンチン霜害ノ報傳ハルヤ同月十六日再ヒ強氣ニ上放レタリ。

即チリヴアプールニ於ケル先物相場ハ一九三七年十月末ヨリ翌月中ハ米國小麦增收豫想及南半球ニ於ケル增產等ノ影響受ケ引續キ安値氣配ヲ持續セルモ、其ノ後アルゼンチン霜害（十

一月十日、十一日及十六日）減收豫想ニ、十二月ニ入リ反動的再奔騰ヲ示セリ。

カナダニ於ケル相場又アルゼンチン減收説ニ、カナダ小麥ノ需要强調ヲ感シ、現物、先物共ニ暴騰セリ。卽チウエニペッグ十二月十一日週末週平均相場マニトバ北部產第三號ハ米國ミネアポリス暗褐色、北部產春蒔第一號ニ比シ僅カ九仙ノ安値ヲ示スニ至レリ。（米國小麥輸出國當時ノ一九二八年ー一九三三年頃ハ通常一六仙程度ノ値開キヲ有セリ）而モ本年カナダ小麥ハ一般ニ品質良好ヲ缺キタル爲、良質小麥ニ就テハ特ニ右ノ如キ高値傾向ヲ示セリ。

2 相場

世界小麥十二月先物月別平均相場（一九三七年、前年トノ比較）

市場名＼年月別	七月平均 一九三六年	七月平均 一九三七年	八月平均 一九三六年	八月平均 一九三七年	九月平均 一九三六年	九月平均 一九三七年	十月平均 一九三六年	十月平均 一九三七年
ウキニペッグ	九二・五	一三四・一	九九・八	一二二・三	一〇二・七	一二三・九	一〇八・九	一二〇・〇
リヴアプール	九八・九	一四〇・三	一〇九・七	一二七・五	一一三・七	一三〇・二	一二一・三	一二八・七
シカゴ	一〇五・九	一二四・六	一一一・三	一一一・〇	一一二・三	一〇六・六	一一四・九	一〇〇・〇
カンサス・シテイ	一〇二・七	一二〇・三	一一二・〇	一〇四・八	一一一・八	一〇一・四	一一三・三	九七・〇
ミネアポリス	一一七・三	一三四・一	一二四・三	一一九・二	一二三・一	一一四・七	一二八・三	一〇八・八

註　單位米仙、ブッシエル當

リヴアプール並ウキニペッグニ於ケル相場ハ英弗額ヨリ、正午別相場ニテ、米仙ヘ換算セルモノナリ（以下同斷）

世界小麥十二月先物週別平均（一九三七年十月中旬以降）相場

週末日＼市場	ウキニペッグ	リヴアプール	ヴエノスアーレス	シカゴ	カンサスシティ	ミネアポリス
一〇月一六日	一一八・二	一二六・五	×一四五・九	九八・五	九五・五	一〇六・九
一〇月二三日	一一八・七	一二五・八	×一四三・三	九八・六	九六・〇	一〇八・四
一〇月三〇日	一一八・二	一二九・七	一一五・四	九六・八	九四・七	一〇六・六
一一月六日	一一一・一	一二五・三	一一〇・二	九一・二	八八・五	九八・八
一一月一三日	一一二・五	一二二・四	一〇六・七	八九・五	八六・六	九八・五
一〇月一日ニ至ル最高値	一一八・七	一三五・〇	一四五・九	一〇八・三	一〇四・〇	一一五・七
一〇月一日ニ至ル最低値	一一一・一	一二二・四	一〇六・七	八九・五	八六・六	九八・五

×印　十一月先物ヲ記ス

ブツシエル當米仙（建値）

一九三七年世界主要小麦市場ニ於ケルブツシエル當小麦現物相場（米仙）

月別又ハ週別平均 ＼ 市場	ウキニペッグ ①	リヴアプール ②	ヴエナスペーレス ③	カンサス・シテイ ④	ミネアポリス ⑤	ベルリン ⑥
七月	一三八・九	一四三・七	一二六・〇	一二二・五	一五一・二	二二三・〇
八月	一二一・九	一二六・九	一二四・一	一一一・八	一三二・八	二一四・一
九月	一二一・一	一三〇・四	一二五・二	一〇九・五	一三三・五	二一五・〇
一〇月	一一七・四	一三一・四	一三七・七	一〇六・〇	一二六・八	二一五・〇
一一月	一一〇・六	一二〇・五	一〇六・九	九四・二	一一五・三	—
至一〇月一六日	一一四・八	一二八・六	一四五・九	一〇二・七	一二〇・六	二一五・〇
至一〇月二三日	一一七・五	一二九・二	一四三・三	一〇四・〇	一二六・六	二一五・〇
至一〇月三〇日	一一六・三	一三三・三	一一五・四	一〇二・〇	一二八・四	二一五・〇
至一一月　六日	一〇九・四	一二五・三	一一〇・二	九五・六	一一六・四	二一九・〇
至一一月一三日	一一一・七	一二二・四	一〇六・七	九二・五	一一五・八	二一九・〇
至一一月二〇日	一一三・八	一二〇・三	一〇八・六	九四・九	一一八・一	二一九・〇
至一一月二七日	一〇八・一	一一七・一	一〇四・〇	九四・〇	一〇八・九	—
至一二月　四日	一一〇・〇	一一四・七	一〇四・一	九五・四	一一一・六	—
至一二月一一日	一一二・三	一一五・四	一〇六・〇	九六・八	一二一・三	—

註 ① マニトヴア第三號種　② 當限モノ相場　③ 當限モノ相場ヲ示ス　④ 冬蒔硬質第二號種　⑤ 春蒔北部產第一號種　⑥ 中部ドイツ產小麥ニテベルリン中央驛渡卸賣値相場

六　最近米國小麥事情

最近ニ至ル概要

米國小麥ニ於ケル持越ストックノ正常化サレタルハ一九二九年ニ始マリ、一九三三年ノ三七八百萬ブッシェルヲ最大レコードトス。其ノ後昨年ニ至ル過去四箇年間ノ收量低下ハ昨年一九三七年七月一日現在ニ於ケル持越高ヲ僅カ一〇〇百萬ブッシェル程度ニ激減セシメタリ。

一九三三―三四年春ヨリ一九三六―三七年ニ至ル米國內小麥相場ハ引續ク國內小麥エーカー當リ收量ノ異狀ナル減收ニ基ク總收量減※退ニ伴ヒ一般ニ世界相場ニ比シ比較的高値ヲ持續セリ

※第一表參照

アメリカ合衆國ニ於ケル一九三七年度產小麥作付面積並エーカー當收量例年トノ比較

第一表

品種	播種面積（千ブッシェル）			收量（ブッシェル）		
	九二八―三二年平均	一九三六年	一九三七年	一九二八―三二年平均	一九三六年	一九三七年
ドラム種	五、〇九六	三、五五五	三、二二六	一〇・一	二・三	八・六
其ノ他春蒔種	一七、〇二五	二〇、四〇四	二〇、五二四	一一・〇	四・八	七・八
春蒔種合計	二二、一二一	二三、九五九	二三、七五〇	一〇・八	四・五	八・〇
冬蒔小麥	四五、二九〇	四九、七六五	五七、六一二	一三・八	一〇・四	一一・九
合計	六七、四一一	七三、七二四	八一、三六二	一二・八	八・五	一〇・七

尤モ一九三六年ー三七年度ニ入リテヨリ世界小麥相場ニアリテハ、最近世界小麥需要急增セルニ反シ、他方過去數箇年ニ亘ル世界小麥總收量ノ減退ニ依リ逐次昂騰ヲ重ネ、米國內小麥相場トノ間ニ相當ノ値開キヲ再現スルニ至レリ。卽チ昨年六月中旬ヨリ同翌月中旬ニカケ暴騰セル世界小麥相場ハ米國小麥相場ヲシテ海外輸出ヲ容易ナラシメ、遂ニ米國ヲシテ再ヒ小麥純輸出超過國タラシメタリ。其ノ後同年產世界小麥收量（ソヴエート及支那ヲ除ク）一〇〇百萬ブッシエル增加說、ソヴエートヨリノ大量出荷報告竝一般歐洲筋買漁リ等ノ影響ヲ受ケ、世界小麥相場ハ再ヒ米國內相場ト共ニ下押シ傾向ヲ示スニ至レリ。

昨年十二月一日（一九三七年）現在發表ニ係ル一九三七ー三八年米國內全小麥收穫高ハ、八七三、九九三、〇〇〇ブッシエルナルコト前述セルカ如シ。而シテ本數量ノ品種別收量內譯ハ（單位千ブッシエル）

硬質赤色冬蒔小麥	三七五、一六四	軟質赤色冬蒔小麥	二五六、五五二
硬質赤色春蒔小麥	一〇二、四〇八	ドラム種	二八、七四九
白色小麥	一一一、一二〇		

硬質赤色春蒔小麥及ドラム種小麥ニ就テハ國內需要充當ニ止マル程度ナルモ、他種卽チ硬質及軟質赤色小麥竝白色小麥ハ國內需要ヲ補ヒ尙數量ニ上ル餘剩量ヲ見ルニ至ルモノノ如シ。

（第四表參照）

米國小麥最近四箇年間 自一九三四－三五年 至一九三七－三八年 輸出入數、國內生產高並推定消費高。

各年度期間ニ於ケル小麥輸入數量（國內消費向）ヘ國內生產高ヲ加算シ之ヲ國內小麥供給量ト看做シ、之ヨリ海外輸出數量ヲ控除セル數量ヲ以テ該年度ニ於ケル一箇年消費量ト推定セリ。一九三七－三八年度ハ豫想數値ナリ（單位一、〇〇〇ブッシエル）。

第二表

年次	一九三四－三五年	一九三五－三六年	一九三六－三七年	一九三七－三八年
輸入數量	一四、〇五一	三四、五一九	三四、二六二	－
生產高	五二六、三九三	六二六、三四四	六二六、七六六	八七四、〇〇〇
供給量計	五四〇、四四四	六六〇、八六三	六六一、〇二八	※九六五、〇〇〇
輸出數量	二一、五三二	一五、九二九	二一、五八四	◎二九五、〇〇〇
國內消費高	五一八、九一二	六四四、九三四	六三九、四四四	六七〇、〇〇〇

※前述セル如ク九六五百萬ブッシエルハ一九三七年七月ニ於ケル持越高九一百萬ブッシエルヲ生產高ニ加算セルモノナリ。

◎輸出可能數量ニシテ實際輸出ハ九〇百萬ブッシエル程度ニテ他ハ次年度ヘノ持越トナルヘキ豫想ナリ。

第三表

アメリカ合衆國ニ於ケル一九三七年度產小麥ノ實收面積並收量例年トノ比較（單位千陌、千ブッシエル）。

品種	實收面積			實收高		
	一九二八―一九三二年平均	一九三六年	一九三七年	一九二八―一九三二年平均	一九三六年	一九三七年
ドラム種小麥	四、七七五	一、五三八	二、七五六	五三、六八七	八、〇七三	二七、七九一
其ノ他春蒔小麥	一五、六三九	九、六三八	一四、七五八	一八七、六二五	九八、八一九	一六一、一〇〇
春蒔小麥合計	二〇、四一四	一一、一七六	一七、五一四	二四一、三一二	一〇六、八九二	一八八、八九一
冬蒔小麥	三九、七二四	三七、六八七	四六、九四六	六二三、二二〇	五一九、八七四	六八五、一〇二
合計	六〇、一三八	四八、八六三	六四、四六〇	八六四、五三二	六二六、七六六	八七三、九九三

※南北部ダコタ州及ミネソタ州ニ於ケル合計

米國小麥本年度豫想（自一九三七年七月至一九三八年六月）

一九三七年七月ヨリ本年六月ニ至ル本年度米國小麥輸出總量ハ略九〇百萬ブッシエルト推定セラレ、本年七月一日現在ニ於ケル次年度ヘノ持越シストツクハ二〇〇百萬ブッシエル見當ヲ多少超過スルモノノ如シ。二〇〇百萬ブッシエル程度ノ持越ストツクハ過去三箇年間ノ數量ニ

比セハ稍大ナルモ一九三〇年ヨリ一九三四年ニ至ル平均持越ノ平常數量ニ比較セハ（三二六百萬ブッシエル）一二六百萬ブッシエルノ減退ナリ。

尚參考迄ニ右持越高ニ至ル米國小麥ノ配分過程ニ關シ當局調査報告ヲ記セハ左ノ如シ。

米國內產全小麥ノ昨年七月ヨリ一月ニ至ル輸出合計ハ四八百萬ブッシエルニ達セルカ二月以降下半期ニ於ケル豫想トシテハ略四〇百萬ブッシエルト見ラレ年計略九〇百萬ブッシエルヲ推定セラル又昨年七月ヨリ本年一月ニ至ル國內消費量ハ三九一百萬ブッシエルナルカ二月以降六月ニ至ル豫想ハ二七九百萬ブッシエルニシテ合計六七〇百萬ブッシエルトナル。

一九三七年七月ニ於ケル持越高九一百萬ブッシエルヘ本年度產國內小麥收量計八七四百萬ブッシエルヲ加算シ九六五百萬ブッシエルノ供給量ヨリ右輸出推定高並國內消費高ヲ控除セハ次年度ヘノ持越ストツクトシテ二〇五百萬ブッシエルヲ得ラル、尚右配分狀態ヲ小麥種別ニ付表示セハ左ノ如シ。

一九三七年十二月現在本年度產アメリカ合衆國小麥品種別供給數量、國內消費量、海外輸出數量並次年度ヘノ持越シ推定高ヲ表記セハ次ノ如シ。

摘要＼品種	硬質赤色冬蒔小麥	軟質赤色冬蒔小麥	硬質赤色春蒔小麥	ドラム種	白色小麥	合計
一九三七年七月一日持越ストツク	四五	一五	一八	三	一〇	九一

本年産生高	三七五	二五七	一〇二	二九	一一一
小計	四二〇	二七二	一二〇	三二	一二一
國內消費推計	二九一	一九六	一〇〇	二七	五六
輸出推定高	六五	〇	〇	〇	二五
小計	三五六	一九六	一〇〇	二七	八一
一九三八年七月持越豫想高	六四	七六	二〇	五	四〇
					二〇五

註　單位百萬ブッシエル。輸出推定高ハ小麥粉ヲ原穀ニ換算セル數量ヲ含ム又屬領地ヘノ輸出ヲ含ム。

本年産トハ一九三七年七月一日ヨリ一九三八年六月三十日ニ至ル期間トス。

次ニ在上海米國總領事館發表ニ係ル一九三七年産米國主要農産物ノ最近推定作付面積並實收高ヲ前年ニ於ケル夫レ等ニ比較セハ左ノ如シ。（單位面積千エーカー收量小麥千ブッシエル、煙草及落花生千封度、胡桃千磅。（－）減）

第五表

品名	作付面積		增減	收穫高		增減
	一九三七年	一九三六年		一九三七年	一九三六年	
冬蒔小麥	四六、九四六	三七、六〇八	九、三三八	六八五、一〇二	五一九、〇一三	一六六、〇八九

春蒔小麥	一七、五一四	一、二一二	六、三〇二	一八八、八九一	一〇七、四四八	八一、四四三
煙草計	一、七〇六	一、四六七	二三九	一、五〇五、七六二	一、一六七、〇六七	三三八、六九五
無毒煙草	九六二・五	八八一	八一・五	八五〇、二三〇	六九五、〇七五	一五五、一五五
落花生	一、六五三	一、七三六	八三	一、二九一、六五五	一、三〇〇、五四〇	八、八八五
胡桃	（加州並オレゴン州ニ於ケル）			五九・五	四三・三	一五・八

胡桃ノ最近五箇年間平均收量（同地合計）三六、五八〇瓲ナルニ一九三七年度ハ加州ノミテ五七、〇〇〇瓲ノ記錄的大增收ヲ示セリ。

米國內小麥市況（昨年十一月以降）

十一月八日ニ至リ一九三六年五月以來ノ最低値ヲ示セル小麥市況ハ（第六表）其ノ後十一月第三週末ニ至ル期間アルゼンチンニ於ケル霜害情報ト歐洲買手筋ノ抬頭ニ一時活況高値ヲ呈セシモ十一月最終週ニ入リオーストラリヤ新穀歐洲市場大量登場ニ基クリヴアプール相場安ニ叩カレ再ヒ下押シ弱氣配ヲ告ケタリ。

十二月ニ入ルヤ前記アルゼンチン被害ノ擴大及カナダ小麥輸出向手薄ノ報ヲ入レ歐洲市場ノ緊張ニ米國小麥ハ一齊ニ衆目ヲ集中スルニ至レリ。然モ尙海外相場ハ米國內相場ニ比シ益値幅ヲ大ニシ、硬質冬蒔第二號カンサンシティ十一月中ノ平均相場ハリヴアプール小口平均相場ニ

比シ四二仙安ヲ示セリ（十月三一仙安、九月二六仙安ー第七表）。

一月ハ南半球產新穀出廻リニ季節的安値ヲ告クルヲ例トスルモ本年ハ一般世界小麥在荷減ニ依リ影響薄シト見ラル。尙前述セル如ク米國內本年度小麥數量ハ比較的潤澤ナルコトヨリシテ又一方「世界小麥情報」ニテ詳述セル如クカナダ或ハ南半球アルゼンチン等ニ於ケル荷動不活發等ヨリシテ、米國內相場ハ依然トシテ海外市場リヴアプール相場等ニ比セハ遙ニ安値ヲ辿ルモノト一般ニ觀測セラレツツアリ。

一九三六年
一九三七年十一月中及十二月十一日ニ至ル米國內小麥相場並カナダ。ウエニペック、英國リヴアプール五月渡先物相場ノ週別平均値ヲ表示セハ左表ノ如シ。

第六表　（ブッシエル當米貨仙引値平均相場）

週末日	ウエニペッグ	リヴアプール	シカゴ	カンサスシティ	ミネアポリス
一九三七年十一月六日	一〇九・一	一一八・九	九一・三	八七・五	九八・〇
一九三六年十一月六日	一〇七・三	一一〇・四	一一三・一	一〇九・五	一二三・一
三七ー十一ー十三	一一〇・〇	一一六・三	八九・八	八五・九	九七・四

三六—十一—一三	一〇六・九	一一一・七	一一三・三	一〇九・九	一二三・五
三七—十一—二〇	一一二・一	一一七・二	九一・八	八八・〇	九九・五
三六—十一—二〇	一〇八・一	一一三・〇	一一五・四	一一一・六	一二五・四
三七—十一—二七	一〇九・九	一一四・二	九〇・二	八七・二	九七・〇
三六—十一—二七	一〇八・三	一一三・九	一一六・一	一一二・一	一二五・八
三七—十二—四	一一二・四	一一四・一	九一・六	八八・七	九八・七
三六—十二—四	一一三・〇	一一九・一	一二〇・一	一一五・二	一二九・〇
三七—十二—一一	一一五・六	一一四・〇	九三・三	九〇・四	一〇〇・七
三六—十二—一一	一一五・六	一二二・〇	一二三・四	一一七・六	一三一・六
一九三七年 一九三六年 最低	一二六・二 一一五・六	一二四・七 一二二・〇	一〇八・八 一二三・四	一〇四・〇 一一七・六	一一四・八 一三一・六
一九三七年 一九三六年 最低	一〇九・一 一〇六・九	一一四・〇 一一〇・四	八九・八 一一二・二	八五・九 一〇九・五	九七・〇 一二一・六

最高、最低値八十一月一日ヨリ十二月一日ニ至ル期間中トス。

一九三七年米國內小麥相場ノ海外相場トノ値開キ

第七表

期限	米國內市場	月又ハ週平均	海外市場	ブッシエル當五月渡相場				ブッシエル當現金相場	
				シカゴ相場平均對比		カンサス相場平均對比		カンサス硬質冬蒔第二號平均相場對比	
	ウエニペッグ	リヴアプール		ウエニペッグ	リヴアプール	ウエニペッグ	リヴアプール	マニトバ第三號	小口リバアプール
九月	一六仙安					二二仙安		一二仙安	二六仙安
十月	一八〃			二三仙安		二二〃	二六仙安	一一〃	三一〃
十一月	二〇〃			二六〃		二三〃	二九〃	一六〃	四二〃
十二月六日ヨリ〃十一日ニ至ル	二二〃			二一〃		二五〃	二四〃	一六〃	—

尙本年度前期ニ於ケル米國內相場ト前年同期トノ比較及本年米國小麥相場ノ傾向ヲ示セハ左表ノ如シ。

一九三七年並三六年米國內主要小麥市場ニ於ケル等級ウエートヲ加味セル現金小麥平均相場比較（月別平均、ブッシエル當米貨仙）。

第八表

品種並市場	年別	七月	八月	九月	十月	十一月
硬質冬蒔第二號小麥	一九三六年	一一一・〇	一一三・〇	一一三・一	一一三・〇	一一一・九
カンサヌシティ	一九三七年	一一三・五	一一一・八	一〇九・五	一〇六・〇	九四・二
ダコタ北部產春蒔第一號	一九三六年	一三五・五	一四六・六	一四六・五	一四八・四	一四四・三
ミネアポリス	一九三七年	一五一・二	一三二・八	一三三・五	一二六・八	一一五・三
硬質ドラム種第二號アンバー	一九三六年	一四二・七	一四九・一	一三六・八	一五三・五	一四八・〇
ミネアポリス	一九三七年	一三三・〇	一一六・三	一一〇・一	一〇八・三	一〇〇・二
赤色冬蒔第二號	一九三六年	一〇五・六	一一七・四	一一九・四	一一一・〇	一一三・七
セントルイス	一九三七年	一一三・〇	一一二・〇	一〇九・二	一〇四・〇	九三・二
米國西部產白色小麥	一九三六年	八九・八	九七・二	九五・五	九七・八	※
シヤトル	一九三七年	一一〇・〇	九八・三	九三・九	九〇・三	八三・八

※一九三六年十月ストライキノ爲同月末ヨリ十二月九日ニ至ル相場ナシ。

製本控

14 5 函	745 號	13年 8月 27日

北經經濟資料 第99号

最近ニ於ケル世界小麦事情一般並ニ米国小麦事情

備考 1冊

145
745

終